

妙安寺だより 314

テレフォン法話 092-751-6

084 (毎週月曜日に話が変わります)

法華経の解説 (4)

[方便品第二 ①]

* 皆様が唱えている部分を、訓読で解説いたします。

爾の時に世尊 よりとしてって 舍利弗にげたまわく のは なり

其の智慧のは なり 一切の・の 知ることわざる所なり はん

て 百千万億 の諸仏にし 尽くして諸仏の 無量のをじ して

く聞こえたまえり 甚深の法を成就して しきに随って説きたもう所 りし

其の時、釈迦牟尼世尊は、身も心も安らかに、不動の境地に入っておられた。

やがて、ゆっくりと静かに立ち上がられて、仏の弟子で智慧第一といわれた尊者に向かって、こう告げられた。の仏の智慧は、まことに深いもので、仏以外の者には、とうてい知ることは出来ない。

諸々の仏によって、さまざまに説かれた智慧の門は理解しがたく、その中に入っていくこともしい。

仏の教えを聞いて悟りを求める者や、一人修行して悟りを開いたすべての仏弟子でも、これを知ることではできないほどである。

なぜなら、仏はかつて、百千万億の、いやそれ以上のとても数えきれないほどの間、諸々の仏のそば近くで親しくえ、悟りを得るために、量り知れないほど教えを修行し尽くし、其の名がく聞こえるほど、勇気を立たせ、精進を重ねて、ひたすら悟りを求めたきたからである。

しかも、きわめて深く、いまだかつて聞いたことすらない最高の悟りをしげ、その悟りめた教えを聞く者の状態に応じて、適切に説いてきたために、仏の心をく理解することはしいのである。

平成23年度 地涌の声の功德主 募集

毎月、妙安寺だよりと共に同封しております「地涌の声」の功德主を募集しております。

希望の月をお知らせください。(同じ月が重なった場合は、申し込み順によります)

功德主料は、ひと月 5,000円です

日蓮聖人は、お彼岸について

「この七日のうちに一善の行ないをせば、悟りを開き、仏になれる。他の時節に功勞を尽くすよりは、彼岸一日に小善を行なえば、大いなる悟りの道にすることができる。人は誰しも、この彼岸の時節をよく知り、小善をも行なうべきである」と、述べられています。

また、「のを渡ることは、法華経にるものはない。法華経以外の諸経は、であり、である。

法華経は、星の中の月であり、を照らす日の光である。

りにはとなり、生死のより、生死の大海を渡して、彼岸のへと渡すのである」と、述べられ、

「お釈迦さまの教えである法華経こそ、迷いの岸から仏さまの安らかなへ、人々を乗せて運ぶ唯一つの大きな船である」と、教えておられるのです。

さらに、日蓮聖人は自ら、「我れ日本の大船とならむ」とし、苦しみの海に沈んでいる人々を救い、お釈迦さまのいる浄土に導いてゆくために、命をげられました。

私たちは、この法華経の教えと、日蓮聖人の生き方を学び、その誓いを自分の誓いとして、お彼岸において、仏道の修行に励み、のに努め、菩提の種を心のにいてゆくことが大事なのです。

秋季お彼岸 お施 餓 鬼 法 要

9月26日(日曜日)

正午より

お 齋 (おとき)

午後 1 時より

お 施 餓 鬼 法 要

午後 2 時より

法 話

お寺にて、下記の日時に お彼岸 読 誦 回 向 を行なっていますので、御自由にお参りくだ

さい。

9月20日（月）彼岸入り **午前11時** **提婆達多品の後半と自我偈の訓読**
午後2時 **自我偈と神力品の後半の訓読**

9月23日（木）彼岸中日 **午前11時** **提婆達多品の訓読** **午後2時** **神力品の訓読**

お経本は、お寺にて準備しております。

ソトバ供養ご希望の方は、別紙の申込書にて早めにお願ひします。（FAXにても受けつけています）

FAX番号 **092-751-4055** （番号をお間違えないように）